

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

# 赤十字NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

<https://www.jrc.or.jp>

令和4年3月1日(毎月1日発行) 赤十字新聞 第982号 昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

MARCH 2022 NO.982

# 3



わたしも赤十字 寄付の協力者 <sup>まつばら まい</sup>松原 舞さん(東京都西東京市 / 33歳)【P.4でご紹介】

## 特集

「東日本大震災」を語り継ぐ

# JRCオンライン語り部LIVE

赤十字の最新情報をSNSでチェック!



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**  
Japanese Red Cross Society

From 宮城・岩手

# 「東日本大震災」を語り継ぐ

# JRC オンライン

# 語り部 LIVE

100th ANNIVERSARY 1922▶2022

青少年赤十字 創設100周年!

昨年は 1万951人が 参加!

東日本大震災から11年。当時、未就学児だった子どもたちも中学生・高校生になりました。そして震災後に生まれた多くの小学生は被災の状況をほとんど知りません。日赤では、青少年赤十字(JRC)の指導の柱として防災教育を掲げ、「正しい知識を持ち、自ら考えて判断し、危険から身を守る行動をとる」力を育てています。今回は、全国で展開している防災教育の中から、日赤宮城県支部がJRC加盟校を対象に実施している「オンライン語り部 LIVE」活動の一部をご紹介します。宮城・岩手で被災した10人の語り部たちの体験を聞き、生徒一人一人が自分ゴト化して考え、自らの命を守る知恵を身につけることを目的としたプログラムです。

(「オンライン語り部 LIVE」は公益社団法人 3.11 みらいサポートとの協働事業です。)



語り部 岩手県釜石市 菊池のどか さん

## 小・中学生にできること、やるべきこと

生徒に語り掛ける菊池さん

2011年3月11日。私は、釜石東中学校の3年生。2日後に卒業式を控えていました。

普通に学校に行き、いつもと変わらない1日。その放課後に、突然、地震が来しました。

その時、私は校舎の外にいました。あまりに長く揺れが続くので普通の地震ではないと感じましたが、山の方から「ゴロゴロ」と音がして、「津波が来る！すぐに避難しないといけない！」とひらめきました。この地域では、地震が起こり山から音がすると津波が来る、と言い伝えられています。地震の揺れが小さくなると、私と同じように感じた中学生たちが、校舎の中からも、校庭からも、一斉に走って避難を始めました。訓練通りの行動でしたが、隣接する鶴住居小学校の前を通ったら、生徒たちがまだ校舎の中にいました。いつもの訓練では中学生は小学生と一緒に逃げます。誰からともなく、校舎にいる小学生に「津波が来るぞ！逃げる！」と大声で呼び掛けが始まり、それは中学生全員に広がって皆が避難を呼び掛け、そして走り続けました。小学生たちも私たちの後に続き、全生徒が無事に一次避難所にたどり着きました。しかし、そこで大きな余震があり、近くの崖が崩れるのを見て、私たちはさらに高台に逃げることにしました。

その時の写真が【A】です。中学生と小学生が手をつないで逃げています。でも皆さん、この写真を見て何か気づきませんか？よく見ると、この時、生徒たちは走っていないのです。実は、同じ道を逃げる人があまりに多くて、人で渋滞が起き、走れずにいたのです。そしてもう一つ。車が逃げる人と

のルートで学校に車で向かった保護者もたくさんいて、津津の被害に遭いました…私たちが、家族と万が一の時にどのように避難するか、ちゃんと話かできていたら…と苦しい気持ちになります。

そして写真【B】は、二次避難所から見た町の様子です。ヘリコプターのような大きな音がして、辺りを見回したら、次の瞬間、魚が腐ったような匂いと共に真っ黒な海水が眼下の町をのみ込みました。どんどん迫ってくる津波に、子どもも大人も泣き叫んだり、家族の名前を呼んで津波に向かおうとしたり、パニックになりました。私も、ここで死ぬかもしれないと感じました。しかし、「死にたくない」という強い思いが湧き、裏の山を目指して、夢中で走りだしました。

私は、津波は「いつか」来ると思っていました。でも「今日」だとは思っていませんでした。

今日来ると分かっていたら、できたことがたくさんあったと思うのです。私がみなさんに伝えたいのは…、①自分の町でたくさん遊ぼう、②地域の人のあいさつしよう、③毎日朝ご飯を食べよう、④災害について知ろう、⑤家族と避難について話そう、です。

地域の人を知ることは防災につながります。避難した時に、助けたり助けられたりすることができます。また、災害はいつ起こるか分からないので、朝昼夜、しっかり食べることは大切です。そして、災害が自分たちの生活にどう関わってくるかを知り、家族とどう避難するか、どこに避難するかを話し合っておきたいのです。最後に。毎日の生活を大切にしてください。当たり前前に生活できることはすごく幸せなことです。家族やまわりの人に感謝をしながら日々を大切に過ごしてほしいと思います。

※掲載用の一部内容を省略



浦山 文男氏 撮影



高村 幸男氏 撮影



参加者 徳島県阿南市立橋小学校 山本 栄 先生

## 子どもたちの学びが、やがて地域の力になる

JRC 加盟校である本校では、オンライン語り部ライブに、2年連続で参加しています。今年度も全校児童で聞かせていただきました。どの子ども、4人くらいの語り部さんのお話を聞かせていただき、学校全体では合計7回のライブに参加しました。菊池さんのお話の中で、二次避難所から眼下の町が津波にのまれていた写真がありましたが、これには「必ず来る、何年か後の私たちの町の



宮城県の日赤職員とオンラインで対話する橋小学校の生徒

風景だ」と衝撃を受けました。高台にある町内の防災公園から見下ろした風景と重なって見えたのです。私たちの学校はリアス式海岸の橋湾の近くにあります。この地域は、昭和南海やチリ地震の津波で甚大な被害を経験しており、市外から転

居してきた私も地元の方から当時の様子を聞きました。南海トラフ地震では8.2メートルの津波被害が予想される地域であり、数年前にそれが発表されると、多くの家庭が安全な内陸部に転居していきました。それでも、この土地を守っていきたい住民はたくさんいるので、学校でも地域でも防災避難訓練を熱心に行っています。

菊池さんのお話以外にも、山のお寺で避難生活を送った話や、大切な家族を津波で失った話などの体験談は、本校児童にとって、自分の住んでい

る町の状況や、学んでいる防災学習と重なることが多くあります。そのため、この体験談を聞くことで、児童一人一人がさまざまなことを感じ、自分ゴトとして吸収できるのだと思います。昨年の語り部ライブで学んだ児童には、こんなエピソードがあります。今年1月に起きたトンガの噴火では、徳島の沿岸にも津波の警報が出ました。しかし、親御さんが家から避難しようとしなかったので、児童は泣きながら親を説得し、高台の避難所に家族で向かいました。また、低学年の子でも、話を聞いた後の感想文に、自分ができることを「(避難所で)小さい子の遊び相手・食べ物を配ること」と具体的に書いていました。備えの大切さや安全な避難についてだけでなく、一歩進んで、自分が周りの人のために何ができるかを考えたのです。

地域の避難訓練では、小中学生のいる家庭や若い世代の参加は少ないようです。しかし、学校での防災教育が家庭に浸透することで、地域の防災力にも貢献できると思います。「いつか大きな災害が町を襲った時、子どもたちもその家族も生き延びて、この土地を立て直せるように…」そういう学びになることを願い、これからも防災教育に力を入れていきます。



橋小学校の「語り部 LIVE」参加の様子

### 参加生徒の声

東日本大震災で起こった揺れの時間がながいと感じました。そして、僕が一番考えたのは、想定外レベルの津波が来たときにどこに逃げたらいいか分からないということです。だから、大人(親)と想定内、外、2つの場合を考えて、再度話し合っておきたいと思いました。

徳島県阿南市立橋小学校6年 東條天飛

子どもを助けようと思ったお母さんが津波で亡くなってしまった。お話を聞いて、とても、こわいと思いました。私は、家に帰ってから家族と津波のことを話しました。地震や津波はとぜんやってきて、家族に会えないこともあるから、自分で考えてすぐひなして自分の命を自分で守りたいと思いました。

徳島県阿南市立橋小学校6年 島尾紗季

特に心に残ったことは、お迎えに来た保護者の方が亡くなったところでした。学校で災害がおきたときのことを親に話してなかったから聞いて、親へ報告する大切さも知りました。菊池さんが「今日津波が来るとわかっていたらできていたことがあったし、前からやっていないとできなかったことがある」とおっしゃったとき本当にそのとおりなんだと実感しました。

熊本県山都町立蘇陽中学校2年 田中彩葉

東日本大震災が大きな被害をもたらしたことは知っていたけど、津波が10m以上もきたことを知り、改めて、災害とは何もかも壊していく恐ろしいものだと感じました。また、菊池さんの話の中に「ありがとう、ごめんねは思った時に伝える」ということを聞き、これから私も家族や友達に思いをその時にしっかり伝えようと思いました。これから先、必ず起こる南海トラフや首都直下型地震などに備えるために、自分の住む地域がどのような影響を受けるのか、調べたりし、少しでもできる対策をやりようと思いました。

熊本県山都町立蘇陽中学校2年 廣瀬美純

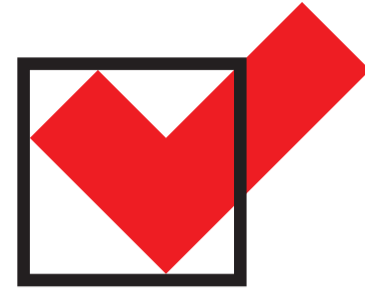
「いつか災害が起きる」ではなく、「今災害が起きたら」が大切だと思いました。本当に災害が起っても、慌てずに避難できるか不安な気がするので、これからは今よりも避難訓練に意欲的に取り組むようにしたいです。家族とも「もし災害が起きたら」のことについて、しっかり話し合うようにしたいと思います。今日は災害について様々なことを知ることができました。今日は本当にありがとうございました。

埼玉県秩父市立尾田中学校1年 関根一華

青少年赤十字の防災教育では、子どもたちが主体的に取り組み、知識と行動力を身に付けることだけでなく、他者へのやさしさや思いやり、いのちの大切さを学び取る力を育てています。つまり、赤十字の活動の根底に流れる「人道」の取り組みです。青少年の健康と安全を守り、学校や地域、家庭での防災意識の向上を目指す防災教育を今後も続けていきます。



日本赤十字社 青少年・ボランティア課長 藤枝大輔



# ACTION! 防災・減災

## 命のために今うごく

昨年、東日本大震災から10年の節目に始まったプロジェクト「ACTION! 防災・減災—命のために今うごく—」未来に目を向けて、「災害への備え」を一人でも多くの方が行動(ACTION)していただけるよう日本赤十字社は、全国で防災意識の向上に取り組んでいます。

### Twitter できる、防災がある

今年も Twitter 上で「#あなたの備えがみんなの備えに」キャンペーンを3月31日(木)まで開催しています! あなた自身が災害に対して備えていることを、写真やテキストで「#あなたの備えがみんなの備えに」を付けて投稿することで、その知恵が広がり、他の方の備えの参考となり、日本全体の「備え」につなげるものです。さらに1投稿またはリツイートにつき100円が賛同企業から日赤の防災・減災への対応を含む活動全般に寄付されます。

#### 参加方法

- ① あなた自身の備えを「#」を付けて投稿
- ② 「#」の付いた投稿をリツイートするだけでもOK

※1投稿・リツイートにつき、100円が賛同企業を通じて日赤の活動に寄付されます。

写真OK! **参加無料!** テキストOK!

防災グッズを撮影してツイート | 防災の工夫をテキストでツイート

「#あなたの備えがみんなの備えに」のハッシュタグを付けて投稿!

多くのご参加をいただき、誠にありがとうございました!

昨年実績

投稿リツイート数 **258,491** 件

賛同企業様からのご寄付 **21,031,500** 円

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介します。

## 東日本大震災後、漫画家の夢を叶えるために上京。寄付は「節目」の恩返し



寄付の協力者  
まつばら まい  
**松原 舞**さん  
東京都西東京市/33歳

11年前、地元の福島県で会社員をしていて、仕事中に被災しました。あの震災で、先のことは誰にもわからないと痛感したんです。たとえできなくてもチャレンジすることに意義がある、そう思い、ずっと夢だった漫画家になるため24歳で会社を辞め、上京しました。実は、それまで私は漫画の描き方も知らないなど素人でした。年齢的には遅すぎるスタートでしたが、居並ぶ先輩たちに追いつくために、漫画家のアシスタントを務めながら、365日、起きている間はずっと絵を描き続け、漫画家デビューのチャンスをつかみました。昨年、震災から10年の節目に、私の描いた漫画作品が50万部を突破。これまで、私を支えてくれたのは福島の友人たちです。自分の中のターニングポイントだと感じ、福島に恩返しをしたいという気持ちが湧いて日赤福島支部への寄付を決めました。日赤を選んだのは、災害支援の最前線で活動していること、そして災害以外にも日赤

に託せば何かしら社会に必ず貢献できるだろうと考えたからです。もちろん、寄付をする前に日赤の活動を調べました。寄付をするなら他人事ではなく、何にどう使われるかはっきり分かるところへ寄付をしたかったので、日赤の活動内容に安心しました。

できれば災害は起きてほしくない。でも災害を避けることはできません。だから私の寄付で災害救護のプロが育成され、いざという時、一人でも多くの命が救われることを願っています。

### 寄付するあなたも赤十字です

- クレジットカードで寄付
- 郵便局・銀行の口座振替
- 郵便局・銀行の窓口
- お近くの日本赤十字社窓口



### 3月11日に公開! <みんなの備えファイル>ムービー

昨年の「#あなたの備えがみんなの備えに」キャンペーンに寄せられた投稿が<みんなの備えファイル>ムービーになりました! 「災害への備え」に関する、さまざまな知恵や工夫をポップなイラストで分かりやすく伝える動画です。ぜひご覧ください。

1ツイートかRTで100円が寄付されます ※参加は無料です

1ツイートかRTで100円が寄付されます ※参加は無料です

1ツイートかRTで100円が寄付されます ※参加は無料です

1ツイートかRTで100円が寄付されます ※参加は無料です

1ツイートかRTで100円が寄付されます ※参加は無料です

1ツイートかRTで100円が寄付されます ※参加は無料です

ぜひ、「#あなたの備えがみんなの備えに」でツイートして参加してください。

2022年3月31日まで

ACTION! 防災・減災プロジェクト特設サイト  
<https://www.jrc.or.jp/lp/bousai/>

キャンペーンの詳細や必要な備えの解説のほか、日赤の防災減災の取り組みについても詳しくご紹介しています。



## 東大月間クイズ 挑戦!

### 知識を深める赤十字QUIZ

出題 東京大学クイズ研究会(TQC)

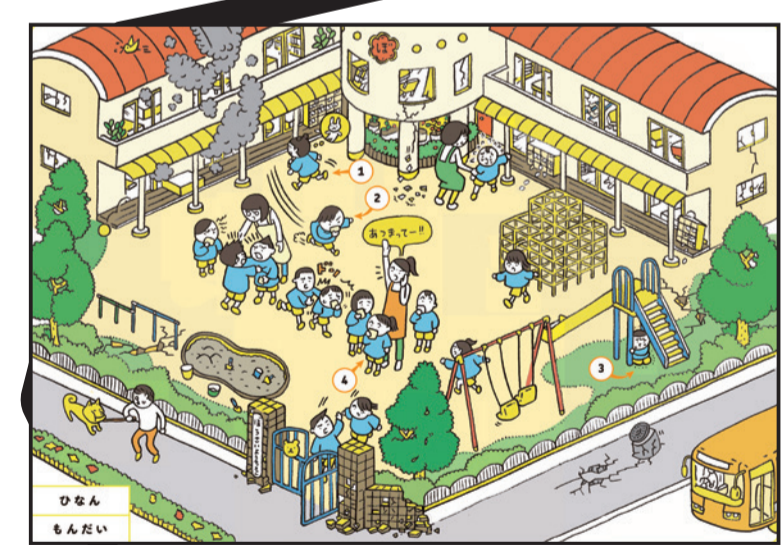
知ってるつもりでも、意外と知らない赤十字のこと。東大クイズ研が手掛ける問題にあなたは正解できる!?

東日本大震災から11年がたとうとしています。「防災」について日頃から正しい知識を身に付け、万が一の際に行動に移せるようにしたいですね。地震が起きたときの基本的な避難方法について、このクイズから改めて確認してみましょう!



### 今月のクイズ

難易度:★★★★



これは、幼稚園・保育所の子どもたち向けの防災教材\*に使われているイラストで、地震後に幼稚園で火事が発生し、園児たちが庭に避難している場面を表しています。イラスト①~④のうち、正しい行動はどれでしょう?

- 1 大切な物を取りに戻る
- 2 急いで走って避難する
- 3 ひとりで身を隠す
- 4 ハンカチで口を押さえて避難する

答えはP.6へ

# AREA NEWS

全国各地  
あなたの生活のすぐそばで  
日本赤十字社の活動は行われています。

## 埼玉県 世界の仲間と学び合おう！ インドネシアのユースと交流

日赤埼玉支部の青少年赤十字メンバーがインドネシア赤十字社のユースメンバーとオンラインで交流しました。当日のテーマとなったのは、両国にとって身近な「地震と津波」。当初は日本のメンバーがインドネシアのメンバーにインタビューするだけの予定でしたが、最終的には両国の文化交流も含めた学びの場となった時間を参加者全員が楽しむことができました。



インドネシアのユースメンバーによる民族舞踊の披露も

### 東大震災に挑戦！クイズの答え

4 ハンカチで口を押さえて避難する

地震が来たら、まずは落ち着いて安全な場所を確認し、自分の身を守る行動をとりましょう。地震後に火災が発生した場合は、ルールに従い避難します。勝手に行動してしまうとけがったり逃げ遅れたりしてしまい危険です。保育園や学校などでは、子どもたちは先生の指示に従って避難することが原則です。「先生の話を聞く」ことも大事です。普段から避難経路などを確認し、いざというときに慌てないよう準備をしておきましょう。

## 秋田県 おうちで一緒に楽しめる！ 簡単な手遊びを動画で公開中

秋田赤十字乳児院のYouTubeチャンネルでは、おうちでできる簡単な手遊びを動画にまとめて公開しています。この動画は同院の子育て支援事業(育児サークル)の1つ「愛あいクラブ」が作成したものです。動画の中では「とんとんとん ひげじいさん」「ピクニック」などの手遊びを歌と共に紹介。おうちで子どもと一緒に動画を見ながら楽しめる内容となっています。



保育士とハートちゃんの実演をぜひご覧ください

## 石川県 土砂災害の発生に迅速に対応 地域奉仕団が避難所で活躍

2月1日に金沢市東長江町で土砂災害が発生し、法面が高さ約40メートル、幅約20メートルにわたり崩落。けが人や建物への被害はなかったものの、停電や断水が発生。開設された避難所では地域奉仕団が中心となり運営などの対応にあたりました。そのため石川県支部との連携もスムーズであり、救援物資や感染対策物資などを迅速に届けることができました。



避難所となった公民館では安眠セットなどを配布

## 山口県 バレンタインデーに献血を！ 愛をこめチョコをプレゼント

コロナ禍で献血バスの受け入れが減少していることから、献血ルームでの協力者数を増やすため、2月14日、山口県ではバレンタインチョコを献血の協力者に贈るキャンペーンが行われました。パティシエを目指す専門学校生が考案した、血液をつくる鉄分を豊富に含んだナッツやドライフルーツがトッピングされたチョコレートは大好評。チョコを目当てに献血協力者も増えました。



献血される方の健康を考えたチョコには、お礼のメッセージが

## 宮崎県 2年ぶりの駅伝大会 日赤救護員が安心をサポート

日赤宮崎県支部は1月10日に開催された新春恒例の「宮崎県市町村対抗駅伝競走大会」に看護師や救護車両を派遣しました。コロナ禍の影響で2年ぶりの開催となった同大会には県内の26市町村から小・中・高校生と一般ランナーたちが参加し、市郡の部と町村の部に分かれて熱戦を展開。幸いにも負傷者や急病者の発生はなく、大会の成功をサポートすることができました。



ランナーに追従する日赤の救護車両

## JRC創設100周年

### 100周年のSNSキャンペーンを実施中 生徒たちが熱い思いをSNSで発信。「#jrc100th」で検索！

2022年は青少年赤十字(JRC)が創設100周年を迎える節目の年となっています。日本赤十字社は100周年事業の一環として、SNSキャンペーンを実施し、全国の活動を紹介しています。このキャンペーンに投稿できるのはJRCメンバーの若者とその指導者や関係者たち(未成年者の場合は保護者の同意が必要)となっています。まず、青少年赤十字全国指導者協議会のインスタグラム公式アカウント「JuniorRedCross\_TSC\_Japan」をフォローし、ハッシュタグ「#jrc100th」が付いた投稿にリアクション(いいねやフォロー、リアクション)は誰でも可)。さらに、自分の学校のアカウントから日々の「#青少年赤十字活動」にまつわる投稿も受け付けています。キャンペーンの詳細や参加要項は青少年赤十字創設100周年のWEBサイトにご確認ください。



## オンラインイベント開催

### 災害救護の発展に向けて… キックオフセミナー

3月26日、日本赤十字看護大学附属 災害救護研究所設立のキックオフセミナー(会場+ZOOM)が開催されます。この研究所は日赤が創設以来深く関わってきた災害救護に関する知の集積と発信の場として設置されました。本セミナーでは、災害救護やボランティア、WHOなど災害における専門家が登壇予定です。参加無料。参加申し込みは下記URLから。  
●申し込み締め切り：3/14

<https://ws.formzu.net/dist/S34601694>

### 明治から令和へ受け継がれる思い 110年記念のシンポジウム

4月2日、明治神宮会館にて「赤十字『昭憲皇太后基金』創設110年記念シンポジウム」が開催されます。同基金は明治45年に昭憲皇太后のご寄付を基に創設された世界最古の国際人道基金。当日はジュネーブ、南スーダンからの録画レポートのほか、人道、SDGsなどをテーマとした講演を予定。参加無料。会場(定員100人)、ZOOM、どちらも下記URLより申し込み。  
●申し込み開始：3/5  
●当日まで登録可能



<https://www.meijijingu.or.jp/miri/info.php>

## 常任理事会開催報告

令和4年2月18日、令和3年度第10回の常任理事会が開催されました。

1. 本社業務執行体制の見直しに伴う関係規則等の一部改正について
2. 新たな給与制度の実施等に伴う日本赤十字社職員給与要綱等の一部改正について
3. 理事会に付議する事項について
  - (1) 予算の補正について(高松赤十字病院)
  - (2) 規則の改正について(日本赤十字血液センター規則の一部改正、本社業務執行体制の見直しに伴う関係規則等の制定及び一部改正等、新たな給与制度の実施等に伴う関係規則の一部改正)
4. 理事会及び第99回代議員会に付議する事項について
  - (1) 日本赤十字社定款の一部変更について
  - (2) 役員を選出
  - (3) 令和4年度事業計画
  - (4) 令和4年度収支予算

審議の結果、上記1及び2については原案のとおり議決され、上記3については理事会に、上記4については理事会及び第99回代議員会にそれぞれ付議することが了承されました。また、三原赤十字病院と三菱三原病院の統合にかかる最終合意、伊勢赤十字介護老人保健施設の廃止について協議し、トンガ火山噴火・津波災害への対応、予算の補正にかかる社長専決事項等の決定状況についてそれぞれ報告しました。  
※オンラインによる開催となりました。

### 赤十字WEBミュージアム

貴重な史料が満載 絶賛、公開中！

# ニッポンの赤十字ゆかりの地を巡る vol.12

## 赤十字名所紀行

### 「命の砦」石巻赤十字病院の赤十字旗 (宮城県石巻市)

東日本大震災における医療活動の奮闘がにじむ、擦り切れた赤十字旗

2011年3月11日、未曾有の大災害となった東日本大震災。大津波の被害も広範囲に及び、自然災害としては戦後最多の犠牲者を出しました。住民の避難生活も長期にわたる中、日赤は医療救護や支援物資の配分、心のケア、ボランティア活動などに総力を挙げて取り組みました。中でも石巻市では、周囲の医療機関だけでなく、市役所も被災してしまったため、石巻赤十字病院が地域の医療を一手に担うとともに、公衆衛生や福祉など、本来ならば行政が行う活動をも引き受け、まさに「命の砦」となりました。地震発生から1カ月間、病院前に掲げられ続けていた赤十字旗。雨や雪、強風などで擦り切れた痛々しい姿に、野戦病院さながらの当時の医療活動の様子が重なります。

実物の旗は、現在、病院内の災害医療研修センターに展示されている

## 「赤十字を応援！」プレゼント パートナー企業紹介 vol.23 株式会社伊藤園

### 有事への備えの大切さを伝え続け、支援を続けます

緑茶飲料で日本一のシェアを誇る伊藤園。「世界のティーカンパニー」を目指し、看板商品「お〜い お茶」を30カ国以上で販売、お茶の魅力の世界に広め続けています。東日本大震災の被災地のコミュニティ支援に継続的に取り組んでいる同社は、「お茶で絆を」をコンセプトに、被災地の方々がつながりを持ち続け、絆を深める一助となれるよう、仮設住宅でのお茶会「お茶っご会」を実施しています。日赤が各地域で展開する防災・減災事業にも賛同し、大規模災害時の救護活動や、防災・減災の教育活動などを支援するため、「からだにいいこと 黒豆茶」の売上の一部を寄付。現在、「ACTION！防災・減災一命のために今うごく」にも参画し、日赤のパートナー企業として積極的にサポートしています。

からだにいいこと 黒豆茶 1ケース (500mlx24本入り) 10名さまに

厳選した国産の黒大豆を使用、炒(い)った黒豆の香ばしさと豊かな甘みが広がる。体にやさしい「カフェイン・脂質・糖質ゼロ」のお茶。商品写真はイメージです

上記プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS 3月号を手にした場所(例/献血ルーム) ⑥3月号に関するご意見・ご感想 ※ご応募いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせのみに利用いたします。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 3月号プレゼント係 FAX/03-6679-0785 WEB応募/右の2次元バーコードからご応募ください。3月31日(木)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

こちらから応募できます

# WORLD NEWS

## アフガニスタン人道危機

アフガニスタン



© Afghan Red Crescent/Meer Abdullah

食料危機に直面する人々に、アフガニスタン赤新月社は緊急食料配給を実施した

## 政変下でも続く赤十字活動

紛争、長引く干ばつと深刻な食料危機、感染症のまん延—あらゆる人道危機に直面するアフガニスタンでは、昨年の政変により国際社会からの援助が滞り、世界最大といわれる危機的状況が生じています。その中でも支援を届け続ける赤十字の活動を、日本人職員の声とともに伝えます。

### アフガニスタンを襲う未曾有の人道危機

過去30年で最も深刻な干ばつに見舞われ、人口の半数を上回る2200万人以上が食料危機に陥っているアフガニスタン。2021年8月、その影響が猛威を振るう最中に起きた政変は、社会的・経済的混乱をもたらし、人々はますます危機的な状況に陥っています。加えて、暫定政権の動向を慎重に見極めようとする国際社会が支援を見合わせていることにより、国家予算の大部分が外からの支援で成り立っていた同国の公共サービスが停止し、2300以上の公的医療施設が閉鎖の危機に追い込まれました。

こういった状況下で、昨年だけで新たに70万人もの人々が食料や安全な暮らしを求めて住み慣れた土地を離れることを余儀なくされ、同国の国内避難民は350万人にも上っています。さらに今、地域によってはマイナス20度を下回る厳しい冬が続いており、自然災害と人為災害が複雑に絡み合う未曾有の人道危機に発展しています。

国連人道問題調整事務所(OCHA)と難民高等弁務官事務所(UNHCR)は、1年間で約5700億円以上が必要として、国連創設以来、最大規模の支援を呼び掛けています。

### 国際支援が滞る中、赤十字が地道に続ける支援

アフガニスタン赤新月社(同国における赤十字。以下、アフガン赤)は、「中立・公平・独立」の基本原則のもと、長年にわたってタリバンを含むあらゆる組織と対話を重ね、信頼関係を築き活動してきました。全土に活動拠点をもち、医療従事者を含む2千人のスタッフと3万人のボランティアによって支援が届きにくい地域にも活動を展開する、同国において他に類を見ない人道支援組織です。食料や防寒着の配布を行うほか、移動型診療チームが遠隔地へ赴き、保健・医療サービスの提供や新型コロナウイルス感染症の予防接種を行うなど、人々のいのちと健康を守る活動を絶え間なく続けています。そして赤十字国際委員会(以下、ICRC)や国際赤十字・赤新月社連盟(以下、連盟)、各国赤十字・赤新月社も一丸となり、アフガン赤を支援しています。

主に、紛争の犠牲となった人々を支援するICRCの職員として昨年7月からアフガニスタンに赴いている川崎弥智都さんは、現地からこう呼びかけます。「とにかく資金難で、学校や公共サービス、そして病院の運営が難しい状況です。ICRCはタリバン政権下でも、医療やりハビリ施設、また水・衛生・経済面に

おいて支援を続けています。国内の28の病院を、医療資材購入から職員の給料支払いまで多角的に支えています。タリバンや委託業者、他団体を介さず、自分たちで支援を展開するのが赤十字です。日赤を経由して届くご寄付も市民のいのちを守る活動に生かされます」

日赤は「アフガニスタン人道危機救援金」に寄せられたご寄付を基に、アフガン赤・ICRC・連盟を通じて、今、必要な緊急人道ニーズに応えるとともに、干ばつなどの脅威に負けない地域社会をつくるため、5カ年の開発協力事業にも取り組んでいます。赤十字はこれからも、アフガニスタンでの支援活動を続けていきます。



移動型診療チームの活動は日赤のホームページでも紹介

### 「アフガニスタン人道危機救援金」受付中

募集期間が1年延長となりました。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。  
募集期間：～2023年3月31日(金)  
<https://www.jrc.or.jp/contribute/help/afghan/>



## 赤十字、世界の「現場」から

supported by ICRC

赤十字国際委員会(ICRC)が展開する紛争地での保護活動や避難民支援。その活動現場で切り取られた、知られざる世界の姿、世界の課題。

2021年11月、南米ペルー。アマゾンの奥地にICRCの医療チームが向かう。小さな船は、川底の倒木に行く手を阻まれても、この先の村にワクチンを届けることを諦めない。紛争や暴力による人道の問題に取り組むICRCだが、武装勢力の影響が強いペルーでは、ワクチンを届ける活動も担っている。

ICRCによる紛争下のワクチン接種



公平なワクチン接種を目指し、世界172の赤十字社が取り組みを続けている。貧困国のワクチン接種はいまだに10%程度。赤十字は貧しい村の家々を回りワクチンの重要性を伝え、移民などにもワクチンが届くように働きかけるなど、草の根レベルでもワクチン接種支援活動を行っている。